琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.114
2024. May

発行者　琉球病院事務部長
池間　忍

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「新年度にあたり」

院長　**福治　康秀**

新年度が始まりました。

当院も、新しいメンバーを迎え、新しい体制で医療やサービスの提供を行います。今年度もよろしくお願いいたします。

今年度は、新年度早々、津波警報の発出がありました。皆さんのところでも、対応に追われ大変なことだったと察します。当院では、ちょうど新入職者オリエンテーションの最中でした。オリエンテーションを中断し、DPAT 隊員および各部署のリーダーを中心に本部立ち上げを行い対応しました。今年は、1月1日に能登半島地震の発生と、災害発生が相次いでいます。災害拠点精神科病院として、災害対応の課題に対し、しっかりとした対応が重要と痛感しております。

さて、今年度に入り、当院には多くの患者さんの来院があります。各連携機関との連携に感謝申し上げます。

今年度も、各種専門医療と精神科救急医療の発展に全力を尽くす決意です。訪問看護・訪問診療（ACT）・地域精神医療、治療抵抗性統合失調症（クロザピン･m-ECT）、アルコール・薬物依存症医療、児童・思春期精神医療、認知症医療、司法精神医療（医療観察法入院・通院、鑑定）、重症心身障害児（者）医療（強度行動障害）、精神科救急医療、そして DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team　災害派遣精神医療チーム）を担います。

昨年度、依存症医療を中心とした病棟を再立ち上げし、軌道に乗りつつあります。認知症のニーズが大きく、今後の動向と当院のできる医療の検討を進めます。ACT もニーズを見極めつつ進めます。治療抵抗性うつ病の治療法として rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）治療を開始します。また、各連携機関とのさらなる連携の強化を進めます。今後も、ニーズに沿った医療を展開します。

そんな最中、当院職員による飲酒運転事案が発生し、就業規則等に則り懲戒処分を行いました。あってはならないことです。当院職員への教育研修の徹底と自覚を促し、再びこのようなことが起きないよう取り組み続けます。誠に申し訳ございませんでした。

さて、今年度の当院の目標として、以下を掲げました。「・・・入退院支援センターの立ち上げを行い、公的病院すなわち最後の砦としての断らない医療を進め、各関連機関との連携をさらに密にしつつ、国が進める救急・専門医療・地域移行の流れをとらえ、琉球病院が最適化するために立場や垣根を超え臨機応変に行動し、ニーズに沿った質の高い医療を提供する」です。この目標に向かい、職員一同全力で取り組みます。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

● 地域医療連携室だより

精神保健福祉士　　長浜　直輝

当院ではアルコールや薬物、ギャンブルなど様々な依存症に対して通院や入院で治療を行っておりますが、患者さんご本人だけではなく、ご家族向けの家族教室も開催しております。家族教室は予約制ではなく、当日参加も可能となっており、依存症についての知識やコミュニケーション法について学ぶことができます。また、それぞれのご家族が抱えている悩みや困り事、関わり方の工夫などを共有する場となっております。ご家族だけで抱え込まず、お気軽に専門スタッフへご相談ください。

家族教室の日程は下記の通りです。

■アルコール家族教室
第1・第3金曜日
13：30～15：00

■ギャンブル家族教室
第1木曜日
13：30～14：30

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964 年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993 年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95 年那覇市立病院精神科、96 年琉球大学精神神経科、2009 年琉球病院精神科部長、2010 年副院長を経て 2014 年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353 床

・精神（一般精神・クロザピン専門・精神科救急）	151 床
・アルコール依存症	44 床
・児童思春期ユニット	4 床
・重症心身障がい	90 床
・医療観察法	37 床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77 番名護東線」浜田バス停下車徒歩 3 分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け 5 分

お問い合わせ

時間	8:30 ～ 17:15（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL	098-968-2133（代）
内線	231・234

地域医療連携室（直通）

TEL	098-968-3550
FAX	098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ412例になりました。2024年3月のCLZ導入数は1例で、通院中の患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル／クロザリル適正使用の流れ（https://www.drs - net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/）でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

新任のご挨拶

看護部長　養田　尚美

4月1日より九州医療センターから昇任で参りました養田尚美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。琉球病院へ赴任し3日目に台湾で地震が起き、沖縄県全域に津波警報が出されました。当院では対策本部が速やかに立ち上がり、DPAT隊員がリーダーシップを発揮し冷静に対応してくれ、本当に頼もしい限りでした。私自身、微力ではありますが、看護部の役割が果たせるように努力して参りたいと強く感じた瞬間です。2024年度　琉球病院看護部では、「倫理を基本とした安心と安全な看護の提供」「精神科看護の専門性を強化し自律した看護師の育成」「医療チームの連携を深め病院経営改善への参画」「個々の職員が働き続けられる職場環境作り」の4つの重点目標を上げています。看護師ひとり一人が自己の役割を理解し、安全で質の高い看護の提供のために、教育を充実させ、高い倫理観を持って行動できる人材、地域の精神科医療に貢献できる人材の育成を目指していきたいと思います。また、対話を大切にし、職員に寄り添う職場環境作りに尽力していきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

精神科急性期病棟紹介

東Ⅰ病棟師長　竹島　銀治

当病棟は、平成31年4月からスーパー救急病棟として運営しています。入院患者さんは精神科急性期特有の陽性症状や著明な陰性症状を呈しているため、リスク管理を中心とした精神科治療が優先され、時に患者さんの安全を守るための行動制限やセルフケア援助を中心とした手厚いケアを必要とします。日々、精神症状や人格特性への理解、観察力や状況判断、リスクアセスメント能力、コミュニケーション能力等、多職種と連携し医療を提供することが求められます。

当病棟の使命は、病院理念「この病院で最も大切な人は医療を受ける人である。」とあるように患者さんに寄り添い、早期から効果的な治療を提供することで、精神症状からの回復を支援し、社会復帰を促進していくことです。これからも患者さんに寄り添い、多くの患者さんの回復を支援していきます。

重症心身障がい部門

療育指導室長　金城　安樹

重症心身障がい病棟では、自身の思いを伝える事が苦手な方が多くいらっしゃいます。また、様々な状況の変化、影響を与える刺激、誤学習等、それらが不適応行動として起きる事があります。ご本人の強みに着目し興味関心や楽しみ等により、生活の質を高める支援をとおして権利擁護の取り組みの充実をはかります。

障がい者虐待防止法は平成24年に施行され運用されていますが、精神科病院における障がい者虐待防止対策を一層強化するために精神保健福祉法の改正が行われました。これにより精神科病院においても令和6年4月から虐待防止の措置の義務化及び都道府県への通報義務化が示された事となります。早期発見することで、継続化及び深刻化することを防ぐための制度です。丁寧で配慮のいき届いた支援がなされているか振り返り、職員同士連携しあう風通し良い職場環境づくりに取り組みます。

こども心療科

心理療法士　我喜屋　良行

琉球病院こども心療科は、沖縄県における「子どものこころ専門医」の研修施設の1つとなっており、今年度も6名の専門医研修の医師が診療陪席や、子どもの診察などを行っています。この資格は、小児科や精神科を専門とされる医師が、子どもの精神疾患や神経発達症（発達障がい）、心身症、不登校、虐待などの子どもの心の諸問題についての理解を深め、さらに専門性を高めていくためのものです。専門医研修の先生方は、すでに県内の医療機関で子どもの診療に関わっていらっしゃる方々です。そのため研修終了後には、それぞれの地域で子どもの診療を行うことができる医師が増えて、初診待機期間の解消や、医療機関同士の連携の取りやすさにもつながることが期待されます。今後も、困っている子どもたちとそのご家族に必要な支援が届けられるように、仲間を増やしながら一緒に取り組んでいきたいと考えています。